

東京ビッグサイトで開催された「MF-TOKYO2023」で「この世はねじでできている」をアピール!

7月12日から15日までの4日間、東京ビッグサイトで日本鍛圧機械工業会主催の「MF-TOKYO2023 プレス・板金・フォーミング展」が開催されました。(一社)日本ねじ工業協会も出展し、当社も会員社として企画をサポートさせていただきました。



当社はファスナー（工業用ねじ）事業、産機（ねじ締め機やねじ締めロボットなど）事業、そして制御（計測・検査）事業の3事業連携で〈締結分野のトータルソリューション〉を提供しています。こういった体制は日本、いえ世界でも類を見ない日東精工だけがもつ強みです。

そして同時に、ねじの大切さ、ねじの奥深さ、ねじの潜在力などを幅広くアピールしていくことで、当社だけでなく業界全体が盛り上がっていくことも大切なことと認識しています。「MF-TOKYO」での日本ねじ工業協会出展への企画協力もそのひとつ。日本ねじ工業協会では2015年から「MF-TOKYO」に出展し、「この世はねじでできている」をスローガンに掲げて、「さまざまな産業を支える多様なねじ」をアピールしています。当社もこの趣旨に賛同し、当社のさまざまなねじを提供し、また子供向けねじづくり体験のワークショップなどを開くなど企画協力をしてまいりました。

今年の「MF-TOKYO2023」のテーマが「人と地球にやさしい技術、確かな未来のために」と謳われていましたので、日本ねじ工業協会でもこういった社会の課題に正面から取り組み『「この世はねじでできている」×「ねじ発サステナビリティ貢献』をアピール。一つひとつは小さなねじではあるけれど、このねじがあってこそはじめて成り立つものがいかに多いか、そして小さなねじに凝

縮された技術開発の取り組みを紹介するものです。

日本ねじ工業協会会員社18社が企画協力するなかで、当社は「ジョイスタッド」「CPクリップ」「アルミタイト」「ギザタイト」の工業用ファスナーや、異種金属結合技術「AKROSE」など、軽量化や省資源化、省作業、リサイクルなどに貢献する製品を多数提供。また企画ブースを訪れた方に精密ねじ、極小ねじのその〈小ささ〉を実感いただけるよう「極小ねじ締め体験コーナー」を設け、当社マーケティング担当が終日サポートしました。

当社では今後もこういったねじ業界全体が底上げしていくためへの尽力・協力を進めてまいります。



写真左上から時計まわりで、日本ねじ工業協会に提供した当社製品／直径0.6ミリのねじを自分の手で締める体験コーナーは大好評／7月14日は当社代表取締役社長荒賀誠も視察／「MF-TOKYO2023」には三徳コーポレーション(株)も出展されており、こちらのブースでも当社のねじを紹介いただいた

特許 Patent

世界初の開発技術「生分解性医療器具」に関して 特許を取得しました

当社ではファスナー事業、産機事業、制御事業に次ぐ4つめの柱とすべく、2019年からメディカル分野に参入、医療用照明器「フリーレッド」を開発・販売しているほか、2021年2月には京都府、京都府立医科大学、富山大学との産官学連携で「世界初 医療用生体内溶解性高純度マグネシウム材料の開発」に成功したことをリリースしています。

骨折をして金属製インプラントで接合手術を受けた場合、快復後にもう一度抜去手術が必要ですが、この「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム材料」が今後実用化されれば、再手術の必要がなくなり、とくに小さなお子さんや高齢者の負担を軽減することができます。

この仕組みを簡単に説明するとー

骨折治療において、骨がしっかりくっつくまで



精錬後のマグネシウム材料 本素材を用いた当社製髄内釘・スクリュー・ボーンプレート（試作品）

はこのインプラント素材が溶けず、しかし骨がしっかり接合されたあとは、ゆっくり溶けて体に吸収されるよう溶解スピードを最適化するものです。マグネシウムが99.95%以上という高純度であることから、体に吸収されても害を及ぼさないものです。

医師・患者、その家族の肉体的・精神的・経済的負担減、入院期間の短縮や医療費の低減、医療資源の節約といった社会的な波及効果が期待でき、また抜去手術が不要となることで深刻な医師不足の一助にもつながります。

前例のないものであり、また健康・命に直結するものですから、着実に丁寧な開発を進めているところですが、この度、すでに出願していた特許を取得することができました。この度の特許取得を弾みに、今後より製品開発を加速させ、早期製品化ならびに上市に向けて取り組んでまいります。

評価 Evaluation

国交省指定の第三者機関から 「技術審査証明」を取得しました

当社では地盤調査機「ジオカルテIV」を開発・販売していますが、同機の「SDS試験結果を用いた液状化判定方法」が、一般財団法人ベターリビングの技術審査証明（BL審査証明）を受けました（審査証明の申請・取得はジャパンホームシールド株式会社によるものです）。

戸建て住宅など小さな建物の敷地では、調査期間や費用に上限があるので、精度は高く、しかしできるだけ簡易な方法による判定が求められます。SDS試験は砂と砂以外に土質を大別できる特性を持つ試験であることから、大がかりな標準貫入試験や室内土質試験を行うことなく、簡易に液状化判定を行うことが可能なものです。今回のBL審

査証明によりこのSDS試験結果を用いた液状化判定方法が、標準貫入試験結果や室内土質試験結果を用いた液状化判定結果と概ね同等であることが確認されました。



「ジオカルテ」は、阪神淡路大震災の半年後となる1995年7月より販売を開始して以来、当社のロングセラー製品になっています。SDS試験方法は、当社、ジャパンホームシールド株式会社および東京都市大学の共同開発によって生み出されたものであり、当社はコンピュータ制御によりSDS試験を自動化した「ジオカルテ」の製造を手掛け、ジャパンホームシールドは当社「ジオカルテ」より得られたSDS試験結果から地盤の特性を分析するシステムの開発・運用を手掛けています。

日東精工統合レポート2023を 発行しました

「日東精工統合レポート」は日東精工グループが価値を生み出す仕組みと、今後どのようにそれを持続、発展させていくかをご理解いただくため、年間の事業活動、財務・非財務情報をまとめた冊子です。

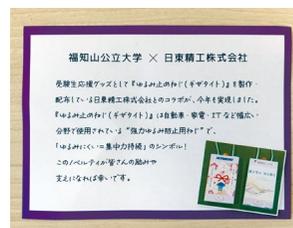
今般、2023年版を発行し、また同じデータをホームページからも閲覧いただけるよう公開しました。一方的な報告書とではなく、皆さまからのご意見を頂戴し、今後の活動の参考にさせていただくコミュニケーションツールとして活用していければと願っています。



▲統合レポートは上記からご覧いただけます

大学のオープンキャンパスで 「受験生応援ねじ」をプレゼント

当社が毎年冬行っている「受験生応援ねじプレゼントキャンペーン」は本年度10年目の節目となりますが、本格的受験シーズン到来前の7月15日に、福知山公立大学オープンキャンパスで、同大学と共同で作成した「受験生応援ねじ」約300個を参加した高校生に配布しました。受験生応援ねじは当社の樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を特別加工したもので、これまで4万人以上にプレゼントしてきました。2023年度も12月1日から数回にわけて募集を開始する予定です。



「受験生応援ねじ」の台紙は福知山公立大学オリジナルデザイン

「ウインクあいち」で ねじ締め機「PD400UR」を展示

7月26日、27日に「ウインクあいち（愛知県産業労働センター）で「URロボットフェア」が開催され、当社産機事業本部からも「PD400UR」を出展しました。たとえば安全柵を設けるスペースがないなかで自動化を進めたい、人と協働して生産性を向上したい、人手不足を解消したいといった声に応える、従来型産業用ロボットとは違う協働ロボットの需要が高まっています。当社では安川電機やファナックなどのロボットメーカーと連携していますが、欧州に本社をもちグローバル展開をしているユニバーサルロボット社もその一つ。ねじ締め機では日本ではじめて同社の「UR+」認証を取得しています。今回の展示会ではこの「PD400UR」をユニバーサルロボット社のロボットに搭載し、ねじ締めをデモンストラレーションしました。



▲PD400URについての詳細はこちらから

「こんなところに“ねじ”発見！」 優秀作品を発表します

当社では6月1日の「ねじの日」に「ねじの写真」を募集開始しました。「こんなところに”ねじ”発見！～身近に隠れているねじを、探してみよう～」というキャンペーンで、「今まで気づかなかったねじの存在」や「ねじの珍しい使われ方」などを写真に収めていただき、作品のタイトルと簡単なコメントを添えて応募いただくものです。



賞品のひとつ「ねじっくん」のぬいぐるみ

募集期間は1か月間で、応募いただいた作品のなかから最優秀賞などを選び、ホームページで掲載しています。日東精工はBtoB（企業間取引）を主とするメーカーで、一般消費者の方と接する機会はありませんが、さまざまな活動を通じて、ねじの大切さ・おもしろさをさらに多くの方に知っていただきたいと考えています。今後も6月1日の「ねじの日」に合わせて企画を進めていく予定です。



▲最優秀賞などはこちらからご覧いただけます

【誠の言霊】
④

好きのレベルを超える

荒賀誠

大谷翔平選手の二刀流がたくさ
んの人を魅了しています。

少し前になりますが、WBCでアメリカとの決勝戦前に「憧れの選手が目の前にいる。でも今日だけは憧れをやめよう。憧れると彼らを超えられない。自分たちは勝つためにここに来たのだから」と大谷選手が皆を鼓舞したのですが、作家・塩野七生さんがこの言葉を絶賛。相手をリスペクトしながら自分たちがさらに奮い立つような表現、とくに「今日だけ」という言葉が絶妙で、大谷選手は「言語力・伝える力」も抜群である旨を記され、そしてこの言葉のバックボーンには、彼の野球を好きで

好きで堪らない姿勢、心底の正直さがあると分析されていました。同じものを見聞きしているのに、作家の〈気づき〉は流石だと感心します。

当社の「ねじを巻く教え」のひとつにも「ライクとラブの違い」があります。自分が取り組んでいるものを徹底的に好きになることは大切で、まさに惚れ込んでこそ一流です！当社事業にはねじ（ファスナー）だけでなく、ねじ締め（産機）、そして計測検査（制御）、メデイカルなどがあります。大谷選手に負けないよう、好きを究め、二刀流どころか三刀、四刀流に磨きをかけたいと思います。

題字・文 代表取締役社長 荒賀誠

※文藝春秋2023年6月号『日本人へ』（237回）

「幸せ」を見つけるヒント 8月

人を主役に進化する街・綾部

今春、スローライフの全国フォーラムが綾部で開催され、スローライフ学会会長の神野直彦東京大学名誉教授が「歩道橋がひとつもない。クルマでなく人が主役の街」と綾部のまちを高く評価されました。また同副会長で生命科学の第一人者である中村桂子さんにも「ほどよい大きさ」と「つながりをとても大事にする」という視点で、やはり綾部に好印象もっていただいたようです。

「SDGs（持続的開発が可能な目標）」という言葉がありますが、大都会もあれば人口3万少しの綾部

もあり、それをまったく同じスタイルで進めようと思っても、そこには無理が生じます。小さな街には都会にはない魅力があり、生き方があり、その場所に相応しいものがあります。「SDGs」という言葉だけを独り歩きさせずに、しっかりその言葉をかみ砕いて、街でも会社でもそれぞれに相応しいベストウエイを追求していくこと、それが正しい発展、進歩に、そして進化、深化、新化につながるのだと思っています。

日東精工代表取締役会長
綾部商工会議所会頭 材木正己

※日東精工はサステイナブル経営（絆経営）を通して皆さんの幸せを願っています。



「SDGs」を考える子供向け夏のイベントを当社も開催



発行：日東精工株式会社経営企画室

当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲覧いただけます